一 般 質 問

令和 4 年 6 月 8 日
第 2 回 広尾町 議会 定例会

通告 順序	議席 番号	質 問 者
1	4	前 崎 茂
2	1	松 田 健 司
3	1 1	旗 手 恵 子
4	1 0	小 田 雅 二

1. 新型コロナウイルス感染拡大による今後の対応について

新型コロナの感染拡大により、1月27日から北海道に「まん延防止等重点措置」が発出され、数次にわたる再延長後、同措置は3月21日に解除された。

これに伴い飲食店等に対する時間短縮等の要請も終了したところである。

当該措置解除後の十勝における感染者数は、3月の3,188人から4月は5,741人、5月も4,700人と増加傾向にある。

今後の感染拡大に伴う対策等について

- ① 高齢感染者は「原則入院」としているが、本町の入院体制は。
- ② PCR検査の実施状況と今後の検査体制は。
- ③ ワクチン接種後における副反応の状況把握と4回目のワクチン接種の見通しは。
- ④ まん延防止等重点措置の解除により、国・道の給付金に代わる支援体制及び臨時交付金を活用した経済対策は。

2. 葬祭場の改築及び道路等整備について

本町の葬祭場は、建設後40年以上が経過し、さらに待合室の狭隘など以前から関係者等より要望も出されていたところである。加えて、葬祭場とともに周辺の駐車場等の老朽化が進んでいる。また、進入路となる道路も損傷が著しく早急な改修が必要となっている。

葬祭場の改築とともに周辺の整備計画は。

通告順序2 質問者：松田 健司

1. 自然体験の場としての公園のあり方について

コロナ禍に入り3度目の夏を迎え、小児研究の国立機関から子どもが外で遊ぶ機会が減っている現状と、それによる弊害が報告され、運動不足、対人関係の希薄化、それらによるストレス症状の増加、そして、それを起因とする心身の不調やうつ症状を発生する子どもの増加も指摘されている。

広尾町では、子どもが遊べる公園が豊富にあるが、子どもたちが外で遊ばない、遊ぶ姿を見る事が減っているとの声がある。

コロナ禍で人との接触自体が、ためられる社会環境の中で、致し方ない事との認識はあるが、ウィズコロナ、アフターコロナを考えた取り組み（子どもたちが外で遊べる、自然体験ができる環境づくり）が、広尾町の未来を担う子どもたちの成育環境にとって、とても大切な事と認識している。

それらの事への町長の考え、現状での取り組みや課題について伺う。

通告順序3 質問者：旗手 恵子

1. 子どもの医療費無料化は高校生まで拡大を

第6次まちづくり推進総合計画では、「日本で一番、安心して子どもを育てられるまちをめざす」とあり、町民アンケートでは、「今後の少子化対策で大切だと思うこと」の第1位は、「経済的支援の充実」がダントツである。

人口減少を止めるには、子育て支援は欠かせない課題であり、具体策として、高校卒業まで医療費無料化を早急に実施すべきでは。

1. 新型コロナ対策について

名古屋市は、3月下旬にワクチン後遺症のための相談窓口を開設し、マスクでも大きく報道され、相談件数は、約1,000件あったと聞いている。

広尾町では、健康管理センターが相談窓口になるが、現時点での合計件数と内容等の詳細について伺う。

また、屋外におけるマスクの着用について、好ましい方法が最近、国から明示されたが、これに対して町としての考えや町民への指導は。

2. 行政報告の新型コロナ感染症の発生状況について

つい最近、厚労省のホームページにおいて、改ざんともいえるミスがあった。接種済者であっても接種日が不明の者については、非接種扱いとされたため、接種していないことで感染したという数値が高くなっていたため訂正された。

非接種者か否かについての情報は、町としては把握せずに、全て保健所の判断となるのかどうかについて伺う。

また、認定こども園でのコロナ感染については、父兄から色々な要望があり、町としてもクラスの閉鎖や国の自粛等、対応に苦慮したと思われるが、このような件についての町としての、あるいは国としてのガイドラインについて伺う。